

## 4 QRS簡易型の検討

—— われわれの簡易型とQRS-SF, QRS-F, QRS-SFAの比較 ——

稲浪正充\*・小椋たみ子\*・西 信高\*  
大西俊江\*\*・高山草二\*\*

---

Masamitsu INANAMI, Tamiko OGURA, Nobutaka NISHI,  
Toshie ONISHI and Soji TAKAYAMA  
Four short forms of the QRS

—— comparisons among our form, the QRS-SF, the QRS-F, and the QRS-SFA ——

---

**Abstract:** 1) The KR-20 reliability coefficient for our short form was determined to be 0.58 (Scale 1, Mother's Affliction), 0.73 (Scale 2, Pessimism about Child Development), 0.43 (Scale 3, Overprotection/Dependency), 0.78 (Scale 4, Anxiety for the Future of Index Case), 0.38 (Scale 5, Social Isolation), 0.46 (Scale 6, Burden for Members of the Family), 0.42 (Scale 7, Financial Problems), 0.32 (Scale 8, Lack of Family Integration), 0.48 (Scale 9, Intellectual Incapacitation), 0.84 (Scale 10, Physical Incapacitation), 0.49 (Scale 11, Need for Care of Index Case).

2) Common items of both our short form of the QRS and the QRS-SF are 19; 127, 226, 215, 84, 219, 133, 98, 48, 159, 32, 111, 156, 194, 195, 143, 10, 118, 122, 272.

These of both our short form of the QRS and the QRS-F are 19; 278, 128, 133, 218, 98, 222, 266, 48, 32, 67, 121, 225, 267, 122, 272, 269, 265, 201, 172. These of our short form of the QRS and the QRS-SFA are 12; 215, 219, 133, 98, 48, 156, 194, 195, 10, 118, 122, 272.

All of four short forms have commonly only 5 items; 133, 98, 48, 122, 272.

### 1. はじめに

障害児をもつ家族についての文献的考察を行っている久保<sup>1)</sup>は、1970年代から1980年代へとすすむにつれて、それは病める家族ではなく、普通の家族であるという見方が定着するようになったとのべている。視点を少しずらすとき、障害児のいる家庭は、家の外からも、家の中

でも、大きな心的ストレスを受けているということがで  
きる。このような心的ストレスを心理測定的にとり上げ  
た最近のわが国での研究のいくつかを、ここでとり上げ  
よう。

橋本<sup>3)4)5)6)</sup>は、心的ストレスを(1) 心理ストレス、(2)  
内部役割ストレス、(3) 外部活動ストレス、(4) 外部対  
人ストレス、(5) 経済ストレス、(6) 総合ストレスに分  
け、障害の診断時から、高校生までのこれらの時間的推  
移を追求し、その援助には長期のサポートが必要である  
ことを説いている。

---

\* 島根大学教育学部障害児研究室

\*\* 島根大学教育学部教育心理学研究室

新美, 植村<sup>15)16)17)22)</sup>は, 詳細な質問紙を作成した。彼らの, 学齢期版母親用のものをあげると, Aのこの子自身の問題として, (1) 健康状態 (2) 育て方 (3) 家庭内の問題行動 (4) 家庭外の問題行動 (5) 発達の問題 (6) 性の問題, Bの学校教育として, (1) 教育内容 (2) 担任の先生 (3) 学校の教育方針 (4) 父兄の問題 (5) 送迎のある通学 (6) 送迎のない通学, Cのこの子の将来として, (1) 義務教育終了後の進路 (2) 将来への不安, Dの自分自身の問題として, (1) 自分の健康・体力 (2) 精神衛生 (3) 自由の制限 (4) この子にたいする負目, Eの家族の問題として, (1) 夫婦間の意見の一致 (2) 夫の協力 (3) 家庭生活 (4) 家庭経済 (5) きょうだいの理解 (6) きょうだいの養育 (7) きょうだいの将来, Fの親戚・近隣関係として, (1) 親戚関係 (2) 近隣・地域社会の理解 (3) 近隣・地域社会でのひきめ (4) 近隣・地域社会での子どもの交遊関係 (5) 地域環境, Gの外部機関として, (1) 医療機関 (2) 訓練・相談機関 (3) 行政機関といった下位尺度になっている。彼らは, この尺度を用いてストレスの構造や背景を解明しながら, 家族が適応するための方法をさぐっている。

和歌山大学のグループも田川<sup>21)</sup>, 中塚<sup>12)13)</sup>を中心にこの問題にとりくんでいる。田川は田研・親の態度診断検査を用い, 障害児の母親の養育態度が危険地帯に位置するものが多いこと, それを子どもの発達のために利用できることをあげた。中塚は, (1) 社会圧迫感 (2) 障害児をもつ負担感 (3) 不安感 (4) 療育探究心 (5) 発達可能性への期待感の5因子からなる障害児を持つ母親のストレス尺度を作成した。柏木, 藤居<sup>9)</sup>はこのストレス尺度を用いて自閉症児の母親と自閉症でない障害をもつ子どもの母親を比較し, 障害児をもつ負担感, 不安感, 療育の探究心の3尺度で, 前者が統計学的に有意に強い負担を感じていることを示している。

金<sup>10)</sup>と仁平・富安・小塩<sup>14)</sup>の比較文化的研究は興味深い。金はCAS不安検査, 親子関係診断テスト, 独自に作成した母親の不満や精神的負担に関する質問紙を用い, 東京都とソウル市での母親の態度の比較を行った。それによれば, 東京都では不安の低い母親群が多く, ソウル市では不安の高い母親群が多かった。また, いずれの都市の母親とも, 拒否型, 溺愛型の母親の割合が多かった。

仁平はアメリカでの精神薄弱児の適応の問題を追求してきたが, 富安・小塩と共同調査を行い, その研究を発展させた。彼らは家庭環境に関する3種類の調査(HOME調査票, 家庭観察票, 家庭特質評定尺度)と子どもの発達に関する2種類の調査(AAMD適応行動尺

度, 親が評価した子どもの社会的, 心理的発達)に基づいた日米の家庭と子どもの発達の関係を比較検討している。それによれば, 両文化圏に共通して, 認知的刺激や生活環境の豊かさが子どもの社会性の獲得に大切であった。しかし, 両文化圏での親と子の情緒的なかわりのあり方には差異が認められた。

ホリロイドは, 1974年に障害のある子をもつ親についての206項目, 15尺度から成るQRS (Questionnaire on Resources and Stress) を発表した。彼女の質問紙はアメリカだけでなく英語圏のいくつかの国で用いられるようになった。われわれは, QRSの日本語版を作り, 障害のある子をもつ母親の心的態度について調査し, 視覚障害や精神薄弱の子をもつ母親と比べて自閉症や肢体不自由の子を持つ母親のストレスの高いことを報告した(稲浪, 西, 小椋<sup>8)</sup>)。

さて, ホリロイドはQRSの質問項目を短縮し, 66項目, 11尺度から成るQRS-SFを作成した。また, フレデリック<sup>2)</sup>, サリスバリー<sup>19)20)</sup>はホリロイドとは別の簡易型を各自に開発している。われわれもQRS簡易型を作成したが, ここではわれわれのQRS簡易型の作成プロセスを記述し, 次に, われわれの簡易型とホリロイド, フレデリック, サリスバリーの各簡易型を比較しての2, 3の知見をのべることにする。

## I われわれのQRS簡易型

### a QRSの構成因子の検討

ホリロイドは障害児にたいしいろいろな経験をもつ人たちから556項目の質問項目を集め, そのうちの251項目を選びだした。それに, 24項目を加え, true-falseで答える285項目, 18尺度から成る質問紙を作った。次に, 43人の親についてこの18尺度上で285項目の項目間の相関マトリックスを作り,  $r = .30$ 以上の206項目, 15尺度から成るQRSを作成した。

われわれは, このQRSの日本語版を作ったが, その際, true-falseを“はい”と“いいえ”で答えるように変えた。

この質問紙を盲学校, 肢体不自由児養護学校, 精神薄弱児養護学校に通っている子どもたちと自閉症児療育キャンプに集まった子どもたちの親から回収し, 簡易型の作成にあたって, 236名の母親から得られたデータを用いた。この際に, “はい”の回答を2点, “いいえ”の回答を1点として処理した。逆スケールでは“はい”が1点, “いいえ”が2点である。

ホリロイドはQRSの15尺度を3部門に分けている。すなわち, 心身不健康, 時間のかかりすぎ, 子どもへの拒

表1 QRSの因子負荷量と反応スコア

QRS 番号	項目 番号	質 問 項 目	因子 負荷量	反応ス コア <sup>a</sup>
278	3	尺度 1 精神的苦悩		
127	14	私はしょっちゅう悩んでいます “はい”	.577	24.2
128	25	私はときどき家を離れたくなることがあります “はい”	.565	15.4
180	36	私は自分の人生のなりゆきに心を乱されています “はい”	.533	27.5
226	47	もし私がつも健康だとしたら——の世話をみるのはもつと容易でしょうに “はい”	.525	22.5
		もし——が居なければ、対外活動も楽にできるのですが “はい”	.504	29.9
215	4	尺度 2 悲観主義		
84	15	そのうちには——も自分でもつとできるようになるでしょう “いいえ”	.542	9.0
49	26	月日がたつにつれて——の世話にますます手がかかるようになると思います “はい”	.505	14.1
—	37b	——は今後ますます私の時間をとるようになると思います “はい”	.417	16.9
219	48	——は順調に発達しています “はい”	—	—
		——はこれ以上よくなりません “はい”	.405	14.9
22	1	尺度 3 過保護／依存		
133	12	——は障害にもかかわらず、自分の能力をとともよく発揮しています “いいえ”	.563	30.5
214	23	——は自分で物事をしたがりです “はい”	.477	26.4
218	34	——の養育に手が離せないため、私自身の成長と発育が制限されます “はい”	.442	23.9
82	45	私は——が自力でできることでも、ついやってやる傾向にあります “はい”	.250	13.2
			.324	48.7
36	5	尺度 4 将来への不安		
98	16	将来を考えると悲しくなります “はい”	.632	53.4
222	27	——がいつまでたつてもこんな風だと思つとやりきれません “はい”	.604	63.0
266	38	——のことを思うと悲しくなります “はい”	.561	56.8
48	49	——は、いつも私たちの頭痛の種です “はい”	.533	25.2
		私は——の面倒をみられなくなった時のことが心配です “はい”	.513	67.2
95	2	尺度 5 社会的孤立		
113	13	親しい友人達と問題を語り合うだけで人生が気楽になります “いいえ”	.474	25.8
191	24	友人の中には——に出会つて大変力になってくれるものがあります “いいえ”	.460	49.4
159	35	私は他人から——の様子を聞かれたとき気まりのわるい思いをしたりはしません “いいえ”	.459	73.2
—	46b	——を世話することで人間尊重の心が生じました “いいえ”	.432	20.6
		世間は温かいものだと思います “いいえ”	—	—
32	7	尺度 6 家族への負担		
67	18	——が居るので家族は皆辛抱しなければなりません “はい”	.555	25.6
33	29	将来ますます責任と家計の負担が増加するので、私たちは世間なみの暮しがしにくくなるとおもいます “はい”	.525	23.7
111	40	——は問題や病気のため家族からとり残されます “はい”	.482	88.6
—	51b	——の世話は私たち家族にとって家計上になっています “はい”	.467	15.8
		家族の誰もが——に気をつけています “いいえ”	—	—
156	8	尺度 7 経済問題		
194	19	私達家族の収入は平均以上です “いいえ”	.577	72.3
199	30	私たちの家族は貯金や投資を手がけてきました “いいえ”	.524	65.8
195	41	私達はぜいたくしようにもできません “はい”	.480	50.6
—	52b	私たちは自宅を所有または買入れようとしています “いいえ”	.419	70.9
		——のためにお金がかかりすぎます “はい”	—	—
143	6	尺度 8 家族和合の欠如		
10	17	——は家族に受け入れられています “いいえ”	.478	28.4
121	28	家の者はお互いに為し遂げたことを賞讃し合います “いいえ”	.416	14.3
118	39	家族はこれまでやってきたように、今もできるだけ何でも一緒にすることにしてあります “いいえ”	.415	6.4
—	50b	私たちは——がだんだんひとりの人間として見えてくるようになり楽しくなりました “いいえ”	.404	30.2
		家族の気持の不調和はありません “いいえ”	—	—
225	9	尺度 9 知的能力の制限		
123	20	——は自分も一人前の人間と思っています “いいえ”	.703	24.5
267	31	——は他人とともうまくやってゆけます “いいえ”	.642	39.7
127	40	——は人に向つて自分の気持を表現できます “いいえ”	.635	26.5
122	42	——は自分の住所がわかります “いいえ”	.625	24.7
281	53	他人への思いやりは——の長所の一つです “いいえ”	.590	32.3
272	10	尺度 10 身体能力の制限		
296	21	——は介助なしで歩行できます “いいえ”	.725	17.9
265	32	——には便器またはおしめが必要ですが “はい”	.685	13.6
201	43	——はバスにのりこむことができます “いいえ”	.652	25.5
273	54	——はひとりで浴室まで行けます “いいえ”	.648	11.9
		——は浴室で介助が必要です “はい”	.623	26.4
34	11	尺度 11 子どものケアの必要		
93	22	——のまわりに人がいると私は気がゆるめません。いつもその子の護衛役です “はい”	.606	26.5
115	33	——がよその子達からじろじろ見られないよう守つてやらねばと感じています “はい”	.433	44.7
172	44	——は誰かが自分のために何かをやってくれると知るともう自分でやろうとはしません “はい”	.426	27.2
—	55b	——は注意を長時間集中することができません “はい”	.424	55.7
		——はかわいい “いいえ”	—	—

a : 質問項目に“はい”と答えた者の百分率（逆スケールの場合は“いいえ”と答えた百分率）を示している  
 b : 元のQRSにはなく、われわれが新しく作った質問項目である

否的態度、過保護／依存、社会援助の不足、かかわりすぎ、悲観主義の7尺度、91項目から成り立っている親自身の問題、家族統合の欠如、家族の幸運制限、経済問題の3尺度、49項目から成り立っている家族の問題、身体能力の障害、活動性の制限、職業制限、社会の圧迫、人格上の問題の5尺度、66項目から成り立っている子どもの問題の3カテゴリーである。われわれはこのQRSの3カテゴリーのそれぞれについて、因子分析を行い、構成する因子の検討を行った。

親自身の問題の91項目について主因子法因子分析を行い、3-7因子と因子数を変えながらバリマックス回転し、最も解釈可能な5因子を抽出した。次に5因子への共通性が.15以下の22項目を除き、69項目についてあらたに主因子法因子分析を行い、バリマックス回転により5因子を抽出し、その因子負荷量の.40以上の項目について因子を検討した。こうしてとり出した5因子を、精神的苦悩(尺度1)、悲観主義(尺度2)、過保護／依存(尺度3)、将来への不安(尺度4)、社会的孤立(尺度5)と命名した。

家族の問題の49項目について親自身の問題と同様な操作を行い、3因子を抽出し、家族への負担(尺度6)、経済問題(尺度7)、家族和合の欠如(尺度8)と名づけた。

子どもの問題の66項目についても親自身の問題と同様な操作を行い、3因子を抽出し、知的能力の制限(尺度9)、身体能力の制限(尺度10)、子どものケアの必要(尺度11)と名づけた。

#### b 簡易型QRSの項目選択・信頼性係数

このようにして設定された11尺度から構成される簡易型QRSの作成にさいして、われわれは原則として次の条件をみたま項目を選ぶことにした。

(1) それぞれの尺度についての因子負荷量の.40以上の項目であること。

(2) “はい”(逆スケールでは“いいえ”)の反応が10%以上であること。また、それぞれの尺度での項目の反応の百分率の差異の比較的少ないこと。

(3) 質問内容が命名されたテーマに一致すること。障害のない子の親にも使用できること。親が抵抗なく気持ちよく回答を終了すること。

このようなガイドラインのもとに11尺度のそれぞれが5項目から構成される簡易型を作成した(表1)。QRS簡易型の質問項目の55項目のうち49項目を元のQRSから選んだが、結果的に(1)(2)のガイドラインを満たさぬ項目が生じた。尺度3の2項目が、(1)に合致しなかった。尺度2と尺度8の各1項目が、

(2)に合致しなかった。また(3)の目的のために簡易型の質問内容の多少の手直しを行い、尺度6の“\_\_\_は問題や病気のため家族からとりのこされています”の質問項目では“いいえ”を“はい”に変えた(附表参照)。

そして、尺度2、5、6、7、8、11では、1項目づつ新しい質問項目を作った。

さらに、オリジナルなQRSでは、“はい”か“いいえ”のいずれかを選択させたがQRS簡易型では、“はい”、“いいえ”だけでなく、“はい”、“いいえ”、“どちらでもない”、“あてはまらない”の4つの答えから1つを選択させ、“はい”(逆スケールでは“いいえ”)を1点、“いいえ”(逆スケールでは“はい”)と、“どちらでもない”を0点、“あてはまらない”を欠損値として処理した。こうして、QRS簡易型の各尺度の最高得点は5点となった。

このQRS簡易型の信頼性係数についての検討を行った。われわれはこの質問紙の回答を662人の健常児の親と357人の障害児の親の合計1,019名の親から集めたが、ここでは小学校児童の親のものについて信頼性係数を算出した。377名の健常児の親と166名の障害児の親の合計543質問紙のうち、データに欠落のあるものを除いた426質問紙についてのKR-20は、表2のようになった。

信頼性係数は、身体能力の制限(.84)のような高い数値から、家族和合の欠如(.32)のような低い数値まで、ばらついている。

表2 われわれのQRS簡易型<sup>a</sup>の信頼性係数

	項目数	平均値	標準偏差	KR-20
精神的苦悩	5	0.796	1.105	.58
悲観主義	5	0.528	1.063	.73
過保護／依存	5	1.052	1.075	.43
将来への不安	5	0.979	1.417	.78
社会的孤立	5	0.913	1.013	.38
家族への負担	5	0.918	0.948	.46
経済問題	5	1.185	1.134	.42
家族和合の欠如	5	0.326	0.399	.32
知的能力の制限	5	0.683	0.973	.48
身体能力の制限	5	0.890	1.462	.84
子どものケアの必要	5	0.763	0.971	.49

a: サンプルは543名の小学校児童の親(377名の健常児の親と166名の障害児の親)の質問紙のうち、データに欠落のあるものを除いた426名の質問紙について計算したものである

## II ホリロイド, フレデリック, サリスバリー の各QRS簡易型

### a ホリロイドのQRS-SF

ホリロイドはオリジナルなQRS作成過程で選び出した285項目の質問項目をベースにQRS-SFと名付けるQRS簡易型を作った。

彼女は自分自身のものに彼女のもとに寄せられたものに加え障害のない子, 障害のある子, 病気の子の親の合計526QRSについて因子分析を行い, 232項目, 11尺度を抽出した。

この11尺度は, 親の問題としての3尺度; すなわち, 依存とマネージメント(尺度1, 40項目), 認知障害(尺度2, 26項目), 身体的制限(尺度8, 8項目), 態度の問題としての5尺度; すなわち, 生涯つづくケア(尺度4, 22項目), 見返りのないこと(尺度6, 22項目), 疾病末期のストレス(尺度7, 23項目), 施設入所の選択(尺度10, 16項目), 精神的苦悩(尺度11, 9項目), 家族の問題としての3尺度; すなわち, 家族の幸運の制限(尺度3, 26項目), 家庭の不調和(尺度5, 26項目), 経済的ストレス(尺度9, 14項目)である。

ホリロイドは, これら232項目についてそれぞれの尺度にもっとも高い相関を示す6項目を選び, 11尺度66項目から成るQRS-SFを作成した。1項目につき, その質問が心的ストレスとなるとき得点を1点とした。このQRS-SFの信頼性係数点KR-20は表3のようになった。

表3 QRS-SFの信頼性係数  
——ホリロイドのデータ<sup>a</sup>

	尺度	項目数	KR-20
依存とマネージメント	1	6	.72
認知障害	2	6	.80
家族の幸運の制限	3	6	.64
生涯つづくケア	4	6	.70
家族の不調和	5	6	.60
見返りのないこと	6	6	-.23
疾病末期のストレス	7	6	.58
身体的制限	8	6	.65
経済的ストレス	9	6	.68
施設入所の選択	10	6	.40
精神的苦悩	11	6	.46

a: 526名の健常児, 障害児, 病気の子の親について計算したものである

### b フレデリックのQRS-F

フレデリックは254名の障害児の親について, QRSの15尺度, 206項目とLie Scale 16項目の質問紙による調査を行った。彼はこれら222項目についての因子分析を行い, QRS簡易型のQRS-Fを作ったが, その際に, 次のような手続きをとった。

(1) 先ず, それぞれの項目とその項目を除いた尺度得点との相関係数を求め, .40以上の項目をとり出したところ, 96項目が残った。

(2) 下位尺度得点の平均値を.20と.70の間にするために, 96項目から17項目を除外し79項目にした。

(3) これら79項目について, 障害のある子の親と, 同一条件下の障害のない子の親の各35名の回答を比較し, 統計学的に有意差のない25項目を除いて54項目を残した。さらに, 別の項目と重なり合う2項目を除き, 最終的に52項目とした。

(4) このように選びだした52項目について主因子法因子分析を行い, バリマックス回転して4尺度を抽出し, QRS-Fを作った。このQRS-Fは, 20項目からなる親と家族の問題(尺度1), 11項目からなる悲観主義(尺度2), 15項目からなる子どもの性格(尺度3), 6項目からなる身体能力の制限(尺度4)の4下位尺度から成り立っている。得点は1質問項目につき, 心的ストレスとなる場合に1点として計算している。

フレデリックはこのように作成したQRS-Fの信頼性係数, KR-20を40名の精神薄弱児の母親について求めたところ.93という高い数値となった。

### c サリスバリーのQRS-SFA

サリスバリーはホリロイドのQRS-SFの因子分析から, QRS簡易型のQRS-SFAを作成した。彼女は189名の親(78名の障害のない子の親と111名の障害のある子の親)のQRS-SFの11尺度得点を求め, それをベースにして彼女のQRS簡易型, QRS-SFAを作成した。その際, 次のように手順をすすめた。

(1) QRS-SFの66項目について, 各項目と, その項目を除いた尺度得点との相関係数を求め, 各下位尺度の信頼性係数を高めるために7項目を除いた。

(2) 残りの59項目について主因子法因子分析を行い, バリマックス回転して7因子を抽出した。

(3) 最後に, この7因子のそれぞれについて, 因子負荷量の.40に満たぬ11項目を削除し, 48項目を残した。こうして, 10項目の生涯つづくケア(尺度1), 6項目の認知障害(尺度2), 8項目の子どもの性格(尺度3), 5項目の家族の不調和(尺度4), 7項目の悲観主義(尺

度5)、6項目の身体制限(尺度6)、6項目の経済ストレスから成るQRS-SFAを作成した。なお、得点は、別の3簡易型の場合と同様に、1質問項目について心的ストレスとなる場合を1点とした。

このように作成したQRS-SFAの信頼性係数、KR-20をサリスバリーはQRS-SFを算出した際の189名の親について計算しているが、それは、尺度1の生涯づくケアで.78、尺度2の認知障害で.84、尺度3の子どもの性格で.65、尺度4の家族の不調和で.69、尺度5の悲観主義で.59、尺度6の身体制限で.67、尺度7の経済ストレスで.69となり、全体として.76というばらつきのない、高い数値となった。

### III 4 QRS簡易型の比較

#### a 信頼性係数

4 QRS簡易型の信頼性係数について、フレデリックのQRS-FのものとサリスバリーのQRS-SFAのものは、各下位尺度の数値が高く、信頼性が高い。

ホリロイドのQRS-SFについて、ホリロイド自身の算定したものと、サリスバリーの算定したものを表4に示すが、サリスバリーのものは、彼女がQRS-SFAを作成する際に、そのベースとして、189名の親(111名の障害ある子の親と78名の障害のない子の親)に用いたQRS-SFの信頼性係数である。これらの数値と、われわれの数値は、尺度によって高いものから低いものまでばらついていて、信頼性は充分とはいえない。

表4 QRS-SFの信頼性係数

尺度	項目数	KR-20	
		ホリロイド	サリスバリー <sup>a</sup>
1	6	.72	.682
2	6	.80	.837
3	6	.64	.519
4	6	.70	.843
5	6	.60	.443
6	6	-.23	.314
7	6	.58	.527
8	6	.65	.654
9	6	.68	.686
10	6	.40	.505
11	6	.46	.347

a: 189名の親(111名の障害児の親と78名の障害のない子の親)のデータから計算されている

われわれのQRS簡易型の信頼性が、QRS-FやQRS-SFAに比べ低いのは、オリジナルなQRSのなかの質問項目を簡易型に採り入れるさいにガイドラインを作りながら、それを満たさぬ質問項目を選び、新しい質問項目を加えたからであろう。また、障害のない子の親にも用いるためや、気持よく質問紙に回答できるように質問項目を手直した影響も考えられる。

サリスバリーはQRS-SFについて、「信頼性は多少低けれども」、(1)適当なサンプル数を集め(2)信頼性係数の低い尺度のあることを注意しながら、妥当性を検討するとき、使用できるとのべている。われわれはこれらの点を注意しながら、このQRS簡易型を利用することを考えている。

#### b 共通の質問項目

ここでわれわれのQRS簡易型で、ホリロイドのQRS-SF、フレデリックのQRS-F、サリスバリーのQRS-SFAに共通の項目をとり出したところ、表5のようになった。

われわれのQRS簡易型とホリロイドのQRS-SFを比較するとき、19項目の共通のものがあった。われわれの親自身の問題のカテゴリーでは、QRS-SFの生涯づくケアに入るものが5項目と多く、その他に、依存とマネージメント、家族の幸運の制限、見返りのないこと、精神的苦悩の各尺度の1項目があった。

家族の問題のカテゴリーでは、経済問題の3項目が、QRS-SFの経済ストレスの中に入った。家族への負担の2項目が家族の幸運の制限に入った。家族和合の欠如の2項目が家族の不調和に入った。家族和合の欠如の1項目が見返りのないことに入った。

子どもの問題のカテゴリーでは2項目だけが共通だった。

われわれのQRS簡易型とフレデリックのQRS-Fを比較するとき、19項目の共通のものがあった。われわれの親自身の問題のカテゴリーでは、精神的苦悩、過保護/依存、将来への不安といった尺度に入る8項目が、QRS-Fでは親と家族の問題と悲観主義の尺度に入る項目として選ばれていた。

家族の問題のカテゴリーでは、共通の項目が少なく、家族の負担の2項目と家族の和合の1項目がQRS-Fの親と家族の問題のなかに入っていた。

子どもの問題のカテゴリーでは、知的能力の制限の3項目と子どものケアの必要の1項目が、QRS-Fの子どもの性格としてとらえられ、身体能力の制限の4項目が、QRS-Fの身体能力の制限としてとらえられていた。

表5 4簡易型に共通にみられる質問項目

尺度	名称	われわれのQRS簡易型にみられる質問項目					QRS-SFとの共通項目	QRS-Fとの共通項目	QRS-SFAとの共通項目
		b	a	b		a			
1	精神的苦悩	278	127	128	180	226	127:精神的苦悩 226:家族の幸運の制限	278, 128: 親と家族の問題	
2	悲観主義	ac 215	a 84	49	-	ac 219	215, 84, 219: 生涯つづくケア		215, 219: 生涯つづくケア
3	過保護/依存	22	abc 133	214	b 218	82	133: 依存とマネージメント	133:悲観主義 218:親と家族の問題	133: 生涯つづくケア
4	将来への不安	36	abc 98	b 222	b 266	abc 48	98, 48: 生涯つづくケア	98, 266, 48: 悲観主義 222:親と家族の問題	98, 48: 生涯つづくケア
5	社会的孤立	95	113	191	b 159	-	159: 見返りのないこと		
6	家族への負担	ab 32	b 67	33	a 111	-	32, 111: 家族の幸運の制限	32, 67: 親と家族の問題	
7	経済問題	ac 156	ac 194	199	ac 195	-	156, 194, 195: 経済ストレス		156, 194, 195: 経済ストレス
8	家族和合の欠如	a 143	ac 10	b 121	ac 118	-	143, 10: 家族の不調和 118: 見返りのないこと	121:親と家族の問題	10:家族の不調和 118:悲観主義
9	知的能力の制限	b 225	123	b 267	abc 122	281	122:認知の障害	225, 267, 122: 子どもの性格	122:認知障害
10	身体能力の制限	abc 272	b 269	b 265	b 201	273	272:身体的制限	272, 269, 265, 201: 身体能力の制限	272:身体的制限
11	子どものケアの必要	34	93	115	b 172	-		172:子どもの性格	

a: ホリロイドの簡易型との共通の項目とその尺度名  
 b: フレデリックの簡易型との共通の項目とその尺度名  
 c: サリスパリーの簡易型との共通の項目とその尺度名

別表 両質問紙とその質問内容

簡易型の項目番号	ホリロイドのスケール	ホリロイドの項目番号	質問項目
1	3	22	簡易型：——は自分の能力をととてもよく発揮しています。 オリジナル：——は障害にもかかわらず、自分の能力をととてもよく発揮しています。
2	5	95	簡易型：私は親しい友人達と問題を語りあうだけで人生が気楽になります。 オリジナル：親しい友人達と問題を語り合うだけで人生が気楽になります。
3	1	278	簡易型：私はしょっちゅう悩んでいます。 オリジナル：私はしょっちゅう悩んでいます。
4	2	215	簡易型：そのうちには——も自分でもっとできるようになるでしょう。 オリジナル：そのうちには——も自分でもっとできるようになるでしょう。
5	1	36	簡易型：将来を考えると悲しくなります。 オリジナル：将来を考えると悲しくなります。
6	8	143	簡易型：——は家族にうけいれられています。 オリジナル：——は家族に受け入れられています。
7	9	32	簡易型：——がいるので、家族は皆しんぼうしなければなりません。 オリジナル：——が居るので、家族は皆辛抱しなければなりません。
8	10	156	簡易型：私達家族の収入は平均です。 オリジナル：私達家族の収入は平均以上です。
9	15	225	簡易型：——は自分も一人前の人間だと思っています。 オリジナル：——は自分も1人前の人間だと思っています。
10	11	272	簡易型：——はひとりで歩けます。 オリジナル：——は介助なしで歩けます。
11	14	34	簡易型：——のまわりに人がいると私は気がゆるめられません。いつも——の護衛役です。 オリジナル：——のまわりに人がいると私は気がゆるめません。いつもその子の護衛役です。
12	4	133	簡易型：——は自分でできるだけのことをできるだけやってみようとはしません。 オリジナル：——は自分でできるはずのことを、できるだけやってみようとはしません。
13	5	113	簡易型：友人の中には——のために大変力になってくれる者がいます。 オリジナル：友人の中には——に出会って大変力になってくれるものがいます。
14	2	127	簡易型：私はときどき家を離れたくなることがあります。 オリジナル：私はときどき家をしばらく離れたくなることがあります。
15	7	84	簡易型：月日がたつにつれて——の世話にますます手がかかるようになると思います。 オリジナル：月日がたつにつれて——の世話にますます手がかかるようになると思います。
16	3	98	簡易型：——がいつまでたってもこんなふうだと思うとやりきれません。 オリジナル：——がいつまでたってもこんな風だと思うとやりきれません。
17	8	10	簡易型：家の者はおたがいにしげなことを賞讃しあいます。 オリジナル：家の者はお互いに為し遂げたことを賞讃し合います。
18	9	67	簡易型：将来、ますます責任と家計の負担が増加するので、私たちは世間なみのくらしがしにくくなると思います。 オリジナル：将来ますます責任と家計の負担が増加するので、私達は世間並みの暮らしがしにくくなると思います。
19	10	194	簡易型：私たちの家族は貯金や投資を手がけてきました。 オリジナル：私達の家族は貯金や投資を手がけてきました。
20	15	123	簡易型：——は他人ととてもうまくやっています。 オリジナル：——は他人ととてもうまくやっています。
21	11	269	簡易型：——にはおしめが必要です。 オリジナル：——には便器またはおしめが必要です。
22	14	93	簡易型：——をよその子たちから守ってやらなければと感じています。 オリジナル：——がよその子達からじろじろ見られないよう守ってやらなければと感じています。
23	4	214	簡易型：——は自分で物事をしがります。 オリジナル：——は、自力で物事をしがります。
24	3	191	簡易型：私は他人から——の様子を聞かれたとき、きまりの悪い思いをしたりはしません。 オリジナル：私は他人から——の様子を聞かれたとき、きまりの悪い思いをしたりはしません。
25	1	128	簡易型：私は自分の人生のなりゆきに心を乱されます。 オリジナル：私は自分の人生のなりゆきに心を乱されます。
26	7	49	簡易型：——は今後ますます私の時間をとるようになると思います。 オリジナル：——は今後ますます私の時間をとるようになると思います。
27	1	222	簡易型：——のことを思うと悲しくなります。 オリジナル：——のことを思うと悲しくなります。



簡易型の項目番号	ホリロイドのスケール	ホリロイドの項目番号	質 問 項 目
28	9	121	簡易型：家族はこれまでやってきたように、今もできるだけ何でもいっしょにすることにしています。 オリジナル：家族は、これまでやってきたように、今もできるだけ何でも一緒にすることにしています。
29	8	33	簡易型：——には問題が多く、家族からとり残されています。 オリジナル：——は問題や病気のため家族からとり残されます。
30	10	199	簡易型：私たちはぜひたくしようにもできません。 オリジナル：私達はぜひたくしようにもできません。
31	15	267	簡易型：——は人にむかって、自分のきもちを表現できます。 オリジナル：——は、人に向かって自分の気持を表現できます。
32	11	265	簡易型：——はひとりでバスにのりこむことができます。 オリジナル：——はバスに乗りこむことができます。
33	15	115	簡易型：——は誰かが自分のために何かをやってくれと知ると、もう自分でやろうとはしません。 オリジナル：——は誰かが自分のために何かをやってくれと知ると、もう自分でやろうとはしません。
34	2	218	簡易型：——の養育に手が離せないため、私自身の成長と発展が制限されます。 オリジナル：——の養育に手が離せないため、私自身の成長と発育が制限されます。
35	3	159	簡易型：——を育てることで、人の命を大切にすることを学びました。 オリジナル：——を世話することで、人間尊重の心が生まれました。
36	1	180	簡易型：もし私をもっと健康だとしたら——の世話を見るのはもっと容易でしょう。 オリジナル：もし私をもっと健康だとしたら——の世話を見るのはもっと容易でしょう。
37	—	—	簡易型：——は順調に発達しています。
38	3	266	簡易型：——はいつも私たちの頭痛の種です。 オリジナル：——は、いつも私たちの頭痛の種です。
39	8	118	簡易型：私たちは——の成長が楽しみです。 オリジナル：私たちは——がだんだん、ひとりの人間として見えてくるようになり、楽しくなりました。
40	10	111	簡易型：——の世話は私たち家族にとって家計上の負担になっています。 オリジナル：——の世話は私たち家族にとって家計上の負担になっています。
41	10	195	簡易型：私たちは自宅を所有しています。 オリジナル：私たちは自宅を所有または買入れようとしています。
42	15	122	簡易型：——は自分の住所がわかります。 オリジナル：——は自分の住所がわかります。
43	11	201	簡易型：——はひとりで浴室まで行けます。 オリジナル：——はひとりで浴室まで行けます。
44	15	172	簡易型：——は長時間集中することができません。 オリジナル：——は注意を長時間集中することができません。
45	4	82	簡易型：私は——が自分でできることを——のためにしてやる傾向にあります。 オリジナル：私は——が自力でできることでも、ついやってやる傾向があります。
46	—	—	簡易型：世間はあたたかいものだと思います。
47	2	226	簡易型：もし——がいなければ、対外活動も楽にできるのですが。 オリジナル：もし——が居なければ、対外活動も楽にできるのですが。
48	7	219	簡易型：——はうまく育っていません。 オリジナル：——はこれ以上よくなりません。
49	6	48	簡易型：私は——の面倒がみられなくなった時のことがしんばいです。 オリジナル：私は——の面倒が見られなくなった時のことが心配です。
50	—	—	簡易型：家族の気持の不調和はありません。
51	—	—	簡易型：家族のだけれど、——に気をつけています。
52	—	—	簡易型：——のためにお金がかかりすぎます。
53	15	281	簡易型：他人への思いやりは——の長所の1つです。 オリジナル：他人への思いやりは——の長所の1つです。
54	11	273	簡易型：——は浴室で介助が必要です。 オリジナル：——は浴室で介助が必要です。
55	—	—	簡易型：——はかわいい。

われわれのQRS簡易型をサリスバリーのQRS-SFAと比較するとき、12項目が共通だった。われわれの親自身の問題の5尺度の中に入る5項目は、QRS-SFAの生涯つづくケアの尺度の中に入った。

家族の問題のカテゴリーでは、経済問題の3項目が、QRS-SFAの経済ストレスの中に入った。家族和合の欠如の2項目は、QRS-SFAの家族の不調和と悲観主義の各1項目としてとらえられていた。

子どもの問題では共通のものが2項目にすぎず、知的能力の制限の1項目がQRS-SFAでは認知障害として、身体能力の制限の1項目がQRS-SFAの身体的制限としてとらえられていた。

これら4簡易型に共通の項目は、ホリロイドの質問項目番号が133の「\_\_\_\_は自分でできることを、できるだけやってみようとしません“はい”」、98の「\_\_\_\_がいつまでたってもこうだと思うとやりきれません“はい”」、48の「私は\_\_\_\_の面倒をみられなくなった時のことが心配です“はい”」、122の「\_\_\_\_は自分の住所がわかっています“いいえ”」、272の「\_\_\_\_は介助なしに歩行できます“いいえ”」の5項目だった。

ホリロイドのオリジナルなQRSは、イギリスで用いられているMalasie調査表と並んで、アメリカを中心に広く障害児の親への質問紙として用いられている(バイエルンら<sup>11)</sup>)。質問項目の多すぎることから4簡易型が作成されたのであるが、この4簡易型のなかで、サリスバリーのものとはホリロイドの簡易型に因子分析を行い、その信頼性を高くしたものであり、質問項目は当然、ホリロイドの簡易型に類似している。

われわれのQRS簡易型とQRS-SF、QRS-Fの両者を比較、検討しよう。われわれのQRS簡易型とQRS-SFは親自身と家族の問題についての共通項目が多いのに対し、子どもの問題での共通項目が僅かに2項目である。これに対して、われわれのQRS簡易型とQRS-Fでは、子どもの問題についての共通項目が多く、家族の問題についての共通項目は僅かに3項目である。このようにわれわれのQRS簡易型とQRS-SF、QRS-Fとの共通項目は、親の態度の異なった側面に認められるという結果になった。

4簡易型に共通の項目は僅かに5項目であることに示されるが、これら4簡易型はホリロイドのオリジナルなQRSに含まれる質問項目の異なった項目から構成されている。ホリロイドが指摘しているように、簡易型をスクリーニングに用い、詳細な調査にはオリジナルなQRSを用いるというように両方を使い分けることも、今後検

討してゆくべきであろう。

## 引用文献

- 1) Byrne, E. A., Cunningham, C. C. : The effects of mentally handicapped children of families — a conceptual review. *J. Child Psychol, Psychiat.*, 26 (6) ; 847-864, 1985.
- 2) Friedrich, W. N., Greenberg, M. T., Crnic, K. : A short-form of the Questionnaire on Resources and Stress. *American Journal of Ment. Deficiency*, 88 (1) ; 41-48, 1983.
- 3) 橋本厚生：障害児家庭のストレスに関する研究。心身障害学研究, 3 ; 63-79, 1979.
- 4) 橋本厚生：障害児を持つ家族のストレスについて。心身障害学研究, 4 ; 25-39, 1980.
- 5) 橋本厚生：「障害児・者のいる家族の発達段階及びストレスの若干の規定要因に関する研究」。長野大学紀要, 3 ; 67-93, 1982.
- 6) 橋本厚生：「社会的ストレスから見た障害児・者のいる家族の家族発達段階とその要因についての研究」。長野大学紀要, 4, 79-109, 1983.
- 7) Holroyd, J. : Manual for the Questionnaire on Resources and Stress for Families with Chronically Ill or Handicapped Members. *Clinical Psychology Publishing Co.*, 1987.
- 8) 稲浪正充, 西 信高, 小椋たみ子：障害児の母親の心的態度について。特殊教育学研究, 18(3) ; 33-41, 1980.
- 9) 柏木和子, 藤居真路：自閉傾向の強さと母親のストレス・和歌山大学教育学部学芸, 32 ; 21-32, 1985.
- 10) 金有淑：精神遅滞児を持つ母親の不安に関する研究——東京都とソウル市の調査をとおして——。特殊教育学研究, 24(3) ; 1-16, 1986.
- 11) 久保紘章：障害児をもつ家族に関する研究と文献について。ソーシャルワーク研究, 8 ; 49-54, 1982.
- 12) 中塚善次郎：障害児をもつ母親のストレスの構造。和歌山大学教育学部紀要, 33 ; 27-40, 1984.
- 13) 中塚善次郎：障害児をもつ母親のストレスの構造(II)。和歌山大学教育学部紀要, 34 ; 5-10, 1985.
- 14) Nihira, K., Tomiyasu, Y., Oshio, C. : Homes of trainable mentally retarded children: comparison between American and Japanese families. *American Journal of Ment. Deficiency*, 91(5) ; 486-495, 1987.

- 15) 新美明夫, 植村勝彦: 心身障害幼児をもつ家族のク  
ライシス状況の測定(Ⅲ). 社会福祉学部研究報告,  
5 ; 1-18, 1980.
- 16) 新美明夫, 植村勝彦: 学齢期心身障害児をもつ父母  
のストレス——ストレスの構造——. 特殊教育学研  
究, 22(2); 1-12, 1984.
- 17) 新美明夫, 植村勝彦: 学齢期心身障害児をもつ父母  
のストレス——ストレスの背景要因——. 特殊教育  
学研究, 23(3); 23-34, 1985.
- 18) 小椋たみ子, 西 信高, 稲浪正充: 障害児をもつ母  
親の心的ストレスに関する研究(Ⅱ). 島根大学教育  
学部紀要, 14 ; 57-74, 1980.
- 19) Salisbury, C. L. : Internal consistency of the Short-  
Form of the Questionnaire on Resources and  
Stress. American Journal of Ment. Deficiency, 89  
(6) : 610-616, 1985.
- 20) Salisbury, C. L. : Adaptation of the Questionnaire  
on Resources and Stress-Short Form. American  
Journal of Ment. Deficiency, 90, (4) ; 456-459,  
1986.
- 21) 田川元康: 障害幼児の親子関係の理解と指導・精神  
薄弱児研究, No.313 ; 62-71, 1984.
- 22) 植村勝彦, 新美明夫: 学齢期心身障害児をもつ父母  
のストレス——「母親用」「父親用」ストレス尺度の  
構成——. 社会福祉学部研究報告, 8 ; 19-51, 1983.